ウガンダ母子保健事業

活動期間：2012 年 6 月 24 日～2013 年 3 月 8 日
報告者：看護師　二星　智恵子

ウガンダ共和国は東アフリカにある、九州くらいの大きさの国で人口は約 3300 万人です。「アフリカの真珠」と言われるだけあって緑豊かです。アフリカというと暑いイメージがありますが、ウガンダは赤道直下にも関わらず標高が約 1200ｍ～1500ｍと高いため、乾季は照りつけるような太陽の暑さを感じますが、雨季は雨が降ると肌寒くなることもあります。

日本赤十字社は 2010 年から、衛生的な出産環境の整備と地域住民への母性保護の普及を目的とした母子保健事業をウガンダ共和国北部 2 県で実施しています。私は 2012 年 6 月～2013 年 3 月までの約 9 か月間、事業管理要員として派遣され、この事業に関わりました。
2012 年末で事業開始から 3 年間が過ぎ、当初予定していた事業期間が終了し、この 3 年間で事業の成果が確認されました。母子健康についての正しい知識を持った 80 人のボランティアが積極的に地域住民との対話集会や妊婦の家庭訪問を行うようになりました。また、国が推奨する 4 回の産前検診を受け、保健所で出産する妊婦に、出産に必要な品一式が入ったママバッグを配布した結果、事業開始時には妊婦の 2 割しか保健所で出産していなかった状況を、約 7 割まで改善することができました。成果が確認できている一方で、保健施設の整備が遅れており医療従事者の不足しているウガンダ北部では、妊産婦死亡率は未だに高い状況です。このような状況から日本赤十字社とウガンダ赤十字社は 2013 年から 3 年間の予定で事業を継続しています。

初めてのウガンダでは日本との出産環境の違いに驚きましたが、ウガンダ人助産師のパワフルさ、前向きで活動的なボランティアたちの姿が印象的でした。